

資料編：データの出どころと、福岡県の水産業のこと

このプリントで使っている資料の出どころと、福岡県の水産業の背景をまとめました。先生向けの紙です（子どもに配る用ではありません）。数字やQRの先を教室の大型提示装置で見せると、プリントの資料がそのまま「本物のデータ」につながります。

1 福岡県の水産物の生産量（令和6年・実数）

水産物	区分	生産量	プリントでの表記
まだい（海面漁業）	福岡県	1,412 t	1,412 t ・ 全国3位
	全国計	15,454 t	15,454 t
くろのり（海面養殖業）	福岡県	27,443 t	27,443 t ・ 全国3位
	全国計	186,896 t	186,896 t

出典：農林水産省「福岡県の農林水産業の概要（令和8年版）」（原資料は農林水産省「令和6年漁業・養殖業生産統計」）。プリントの「のり類（くろのり）」は、統計上の「くろのり」収獲量（種苗養殖を除く）を指す。福岡県の代表ブランド「福岡有明のり」の実体がこの数字である。

2 福岡県の3つの海

福岡県は、性格の異なる3つの海に面している。筑前海（玄界灘側・北）は、まだいなど岩礁域の魚がとれる好漁場。有明海（南西）は、潮の満ち引きの差が最大6mと国内で唯一の大きさで、広大な干潟と栄養豊かな河川水にめぐまれ、のり養殖の適地になっている。豊前海（東・瀬戸内海側）でも、かき・がざみなどの漁業がある。プリント1・3まい目の「3つの海」は、この区分をそのまま使っている。

3 全国の生産量の変化（実数）

年	漁業・養殖業生産量
昭和59年（1984年）	1,282万 t（生産量ピーク）
令和5年（2023年）	383万 t

出典：水産庁「ひとくちメモ」（原資料：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」）。減少の主因は沖合漁業（まき網によるまいわし等）の漁獲量減で、海面養殖業を含めても回復していない。

授業でのつかいどころ：1まい目（漁業と養殖業、福岡県の3つの海の名前）→ 2まい目（全国の生産量の推移グラフ＋福岡県のまだい・くろのりの表を読む）→ 3まい目（有明海の実情と条件を結びつけ、「まとめ」の穴埋めで文章化する）→ 4まい目（「魚が減っているから食べられなくなる」という早合点を資料で正し、有明海の実情を根拠に福岡県の水産業を説明する）の順。福岡県の子には、まだい・のりとも身近な産物なので、資料が自分の県の話になる。他県で使う場合も、農林水産省「都道府県の農林水産業の概要」で同じ形式の自県データに差し替えられる。

4 一次資料へのリンク（QR）



水産庁「ひとくちメモ（漁業・養殖業生産量の推移）」
maff.go.jp/j/kanbo/hitokuchi_memo/



農林水産省「福岡県の農林水産業の概要」
maff.go.jp/j/kanbo/tiho/



佐賀市「有明海の風景」
city.saga.lg.jp/165.html